

瀬田川プランクトン調査結果速報

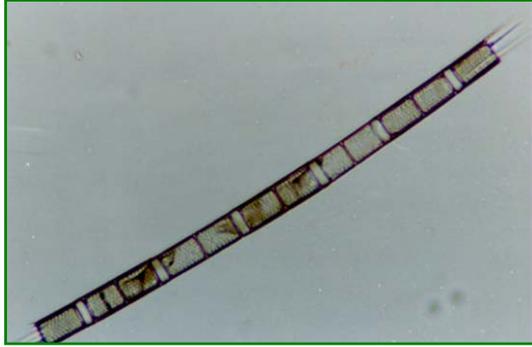
～第23報～

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
生物圏担当

平成19年9月3日

1. 最も数が多かった種類(優占種)

植物プランクトン第1優占種



Aulacoseira granulata

(アウラコセイラ)

珪藻綱

細胞は円筒形で、糸状の群体を形成する。群体の両端に顕著な長い剛毛を1～3本有する。メロシラ グラヌラータとも呼ばれる。

動物プランクトン第1優占種



Ceriodaphnia sp.

(ネコゼミジンコ)

甲殻類

ミジンコの仲間。顔に吻(ふん:口先のこと)がない。第1触角は短く、頭は低い。

コメント

植物プランクトンは先週に引き続き少なかった。その中で珪藻のアウラコセイラ グラヌラータが数としては多かった。動物プランクトンも少なく、甲殻類、ワムシ類などが見られた。その他の甲殻類としたのはネコゼミジンコで30個体/Lと最も多かった。ピコ植物プランクトンは61,000細胞/mlと前回よりも多く、その中で輝橙色の種は33%であった。

2. 見つかった主なプランクトンとその数(個体数)

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体/L)
甲 殻 類	その他の甲殻類(<i>Ceriodaphnia</i> sp.)	30

第 2 優 占 種		個体数 (個体/L)
甲 殻 類	Copepodid	20

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
生物圏担当

(2) 植物プランクトン

平成19年9月3日

第23報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Chroococcus dispersus</i> var. <i>minor</i> *	10		
(珪) <i>Aulacoseira granulata</i>	95	◎	◎
(珪) <i>Stephanodiscus carconensis</i> var. <i>pusilla</i>	10		
(珪) <i>Cocconeis placentula</i> var. <i>leneata</i>	10		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	10		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	40	○	○
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	20		
(藍) 藍藻綱	10	5.1	1.1
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(珪) 珪藻綱	125	64.1	72.5
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	60	30.8	26.4
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	0	0.0	0.0
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細 胞 数	195	総体積	2.71E+05
種 類 数	7	(μm^3)	

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)
ただし*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。



ピコ植物プランクトン
1,000倍G励起で撮影

(3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	9月3日 細胞数/ml
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.	61,000

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが $0.2\sim 2\mu\text{m}$ ($1\mu\text{m}$ は 1mm の $1,000$ 分の 1)の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。